



すが、残念ながら田村市はそれがありません。田村市が今一番PRしたいものは何でしょうか。「これが主役だから、PRに力を入れていきたい」といったものを教えてください。

市長 まずは、あぶくま洞を拠点に田村市観光の魅力を発信し、市内を周遊してもらいたいと考えています。

石田 僕だったら、あぶくま洞の入洞者数を伸ばすために、あぶくま洞に生息する生き物をモチーフにした、ぬいぐるみを作って売り出しますよ。洞内に入ってからが勝負ではなく、あぶくま洞のイメージを違った意味でPRすることも必要でしょう。ぬいぐるみを動画や交流サイト（SNS）を使ってPRし、多くの人の注目を集める仕掛けを考えますね。

市長 スカイパレスときわでは、タガメを入れたサイダーや食用コオロギをちりばめたアイスを提供したところ、多くの方から注目を集めました。



夢グループのコンサート等で販売しているコラボ商品

最後に、市観光大使としての今後の展望をお聞かせください。

石田 田村市民から「石田社長が田村市観光大使になってよかった」と、思ってもらえるような取り組みをしていきたいです。今の田村市は、細かいことをいろいろやりすぎているのではないかと感じています。一番メインとなるものに力を入れて、目標を設けて、努力することが大事でしょう。そのために、あぶくま洞の入洞者数を増やすためPRをいっぱいしたい。そこから、さまざまな取り組みを進め、成功体験を増やしていきたいです。田村市民から「石田社長が観光大使になって、あぶくま洞の入洞者数が増えて、ありがたいね」と言ってもらえるように頑張りたいです。

Information インフォメーション

市公式 YouTube で、石田社長、保科さんが出演する市観光 PR 動画を公開しています。

問産業部 観光交流課 ☎ 81-2136



「観光PR動画や新聞広告などさまざまな手段で、田村市の観光PRに尽力されています。現在の取り組みを教えてください。」

新しいスタイルの観光PRを

算をかけることはできないのかなと感じます。

市長 そうしたご指摘をいただけるのは、観光大使にご就任いただいたからこそです。私たちが承って、実現に向けて動きます。

石田 僕が観光大使になったからには、福島県全体をPRするよりも、一つの市をPRした方が難しいように簡単だと思っています。一方で、田村市だけをPRしても、多くの方々の関心は集めにくいでしょう。保科さんは石川県観光大使、僕は田村市観光大使、今度2人で宮城県気仙沼市の大使（みなと気仙沼大使）になりました。これから僕が保科さんと目指すところは、県庁所在地ではない市をいくつかつなぎ、そして同時にPRすることで、もっと多くの方々の関心を集められるのではないかと。市と市

を結ぶことで、一つのものをPRするよりも相乗効果のある新しいスタイルのPRができると思います。

市長 私たちにとっては、石田社長との出会いから、いろいろなものが広がっていくような感じがして、ワクワクしています。

石田 観光は、まず数字が見えないことには何も言えません。僕は、例えば夢グループのホームページにどのぐらいアクセス数があるか、同時に自分がPRした時、どのように数字が伸びていくのかを常に見ています。僕たちは、一つのものをゆつくり育てる時間はありません。人が100年かかるところを1年でやる努力をしなければいけないのだと。努力というものはお金だけの努力ではなく、アイデアが一番だと考えています。アイデアは、一番お金がかからないものです。お金をかけてしまったものは、失敗すると取り返しがつきません。アイデアをどう持つかが大事です。観光PRでも「月にいくつぐら

あぶくま洞

入洞者増に注力

「田村市の観光を活性化させるためのアイデアをお聞かせください。」

保科 あぶくま洞の場合、女性が彼氏に「あぶくま洞に行ってみようよ」と言い

いするのか」「動画やメッセージはどれぐらいの人たちが関心を持つのか」ということを、研究して前に進めていく努力をすれば、面白いのかなと思います。



たくなるような、女性目線の考え方を取り入れると思います。洞内のグラデーションはきれいなので、それにちなんだアクセサリーを作ってみるのも面白いでしょう。

石田 あぶくま洞の入洞者数を増やすには入洞料金を安くすればいい、という単純なものではありません。あぶくま洞の入り口にたどり着くまでの道が、殺風景で何もないと感じています。入り口までに、いろんな看板があればいいと思います。有名な観光地は「街に入っただけから雰囲気が違うな」と思えるのが特徴の一つで